

# 地域社会への責任

企業の持続的な発展は、社会との信頼関係なくしてはありえません。とりわけ、製造業では工場をおく地域社会との共生が不可欠です。日本製紙グループでは、事業活動として社会に貢献するだけでなく、企業市民としての社会貢献活動にも積極的に取り組み、社会との共生に努めています。各事業会社がそれぞれの設立時から築いてきた各地域との良好な関係を保つとともに、それをグループ全体でさらに発展させるための取り組みに力を注いでいます。





未来のための「いのちの森づくり」第1回植樹

## 社会貢献活動の基本的な考え方と推進体制 ..... P 108

基本的な考え方 .....	P 108
社会貢献活動の推進体制 .....	P 108
社会貢献活動の全体像 .....	P 108

## 教育に関する活動 ..... P 110

社会見学の機会の提供 .....	P 110
就業体験の機会の提供 .....	P 110
従業員による授業機会の提供 .....	P 110
国内社有林の活用 .....	P 111
音楽を通じた教育機会の提供 .....	P 111
スポーツを通じた教育機会の提供 .....	P 112
教育現場への物品提供 .....	P 112

## 環境に関する活動 ..... P 113

生物多様性の保全 .....	P 113
リサイクル活動の推進 .....	P 113
地域に緑を増やす活動 .....	P 113
環境教育に関する機会の提供 .....	P 113

## 地域・社会との共生などに関連する活動 ..... P 114

地域美化活動 .....	P 114
地域文化の保全 .....	P 114
地域との共生 .....	P 114
障害者スポーツの支援 .....	P 115
従業員へのボランティアの機会の提供 .....	P 115
藤原科学財団への支援 .....	P 115

# 社会貢献活動の基本的な考え方と推進体制

良き企業市民として、地域の方々に信頼され、親しまれる企業であるために、各地でさまざまな社会貢献活動を続けています

## 基本的な考え方

理念と基本方針を定めてグループ全体で取り組むとともに、各社・各事業所でさまざまな活動を推進しています

日本製紙グループでは、紙を広く安定供給する企業活動を通じて、社会と文化の発展に寄与しています。また、近年ではグループCSR経営に力を入れ、総合的な社会的責任を果たすとともに、企業市民としての社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

日本製紙グループは、全国各地でさまざまな活動に取り組んでいます。清掃活動やお祭りなど地域活動への参加、工場見学の受け入れのほか、紙を通じて環境について考えてもらう学校授業の実施など地域に根ざした各種の活動はもとより、最近では、全国約9万ヘクタールに及ぶ社有林を活用した「森と紙のなかよし学校」など、グループのスケールを生かした活動にも取り組んでいます。

これからも、一つひとつの活動をいっそう充実させていきながら、グループ全体で社会貢献活動をさらに推進し、社会の発展を支えていきます。

## 社会貢献活動の理念と基本方針(2004年4月1日制定)

### 理念

私たちは社会の一員として、誇りを持って社会全体の発展に貢献する活動を行います。

### 基本方針

1. 文化の継承・発展に寄与する活動を行います
2. 地球環境の保護・改善に貢献する活動を行います
3. 地域社会の発展に役立つ活動を行います

## 社会貢献活動の推進体制

CSR体制を拡充し、グループ各社に担当者を置いて継続した活動に取り組んでいます

日本製紙グループでは、2008年6月に設置したCSR本部が中心となって、グループ全体の社会貢献活動を推進しています。

グループ各社においては、社会貢献担当者をそれぞれ選任しています。各担当者は、従来の地域貢献活動を把握するとともに、それらの充実に努めています。近年では、特に、地域社会の発展に貢献していくことを目指して、学校関係の工場見学受け入れのほか、清掃活動やさまざまな地域行事への参加・協力支援などの推進に力を入れています。

## 具体的な活動テーマ

- 従業員が主体となって取り組む社会貢献活動の推進
- グループ各社の工場および海外現地法人における地域活動の充実
- グループスケールで行う社会貢献プログラムの創出
- グループ各社の事業・専門性を生かした活動の推進
- 日本国内の社有林(約9万ヘクタール)の有効活用
- 従業員の社会貢献活動支援制度の構築
- 社内外への積極的な広報活動

## 社会貢献活動の全体像

基本方針をふまえて多彩な活動を展開しています

日本製紙グループでは「社会貢献活動の理念と基本方針」に沿って、多彩な取り組みを推進しています。その内容は、教育に関するもの、環境に関するもの、地域・社会との共生などに関するものなど、多岐にわたります。その主なものを右表にまとめました。なお、日本製紙グループの主な社会貢献活動についてはウェブサイトをご覧ください。

WEB 社会貢献活動  
<http://www.np-g.com/csr/social.html>

日本製紙グループの主要な社会貢献活動一覧※

分野	主な取り組み	具体例	記載ページ
教育に関する活動	社会見学の機会の提供	工場見学の受け入れ	P110
	就業体験の機会の提供	インターンシップの受け入れ	P110
	従業員による授業の提供	出前授業、学校授業への協力	P110
	国内社有林の活用	「森と紙のなかよし学校」の開催	P111
		学習林として社有林を公開	—
	音楽を通じた教育機会の提供	札幌ポップスコンサートへの児童・生徒ご招待	P111
		熊日学生音楽コンクールへの協賛	—
		日本製紙Museum Concertへの協賛	P111
	スポーツを通じた教育機会の提供	野球教室、野球大会の開催	P112
		アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催	P112
一輪車の寄贈、一輪車指導者の研修会の開催		—	
教育現場への物品提供	教育機関への紙の提供	—	
	教育機関への印刷物の提供	P112	
環境に関する活動	生物多様性の保全	独自技術「容器内挿し木技術」の活用	P13、P113
		「シラネアオイを守る会」の活動を支援	P113
		世界遺産・吉野山の桜の保護活動を支援	—
	リサイクル活動の推進	「リサイクルプラザ紙遊館」の運営	P113
		わりばし回収リサイクル事業の実施	—
		リサイクル推進団体の支援	—
		古紙回収施設の設置	—
		牛乳パック回収リサイクル	—
		エコキャップ回収運動	—
	地域に緑を増やす活動	植樹活動の実施・参加	P13、P113
	環境教育に関する機会の提供	地球環境フォーラム(一般向けセミナー)の開催	—
		各種環境イベントへの参加	—
		環境意識啓発の支援・協力	P113
地域美化活動	事業所周辺の清掃活動	P114	
	環境整備活動への協力	—	
地域安全運動	子どもの安全を守る取り組み	—	
	交通安全への取り組み	—	
地域文化の保全	文化的価値のある桜を守る活動	—	
	飛鳥山薪能の運営支援・協賛	P114	
地域・社会との共生などに関連する活動	地域との共生	工場見学の受け入れ、地域交流会の開催	—
		お祭りなど地域行事への参加・協賛	P115
		所有する厚生施設(体育館など)の一般への開放	—
		所有する土地の無償貸与	—
		スポーツ大会への協賛(那覇マラソン、福知山マラソンなど)	—
		災害時の支援協定の締結	—
		夏祭り、ゲートボール大会などイベントの開催	—
福祉活動	養護学校の学園祭にボランティア参加	—	
	障害者とのスケート交流会の開催	—	
	社会福祉団体の製品(パンなど)を購入	—	
	使用済み切手、使用済みカードなどの寄付、献血	—	
障害者スポーツの支援	アイススレッジホッケーの支援	P115	
従業員へのボランティアの機会の提供	「障害を持つ方々のための特別鑑賞会」への参加	P115	
藤原科学財団への支援	藤原科学財団への財政面での支援	P115	
災害時の被災者支援	義援金や義援物資の提供など	—	

※ 海外植林地での活動はP60-73をご参照ください

# 教育に関する活動

工場見学や就業体験、スポーツ・芸術に触れる機会の提供など、子どもたちの学習や健全な成長に役立つさまざまな取り組みを展開しています

## 社会見学の機会の提供

紙を通じて循環型社会の大切さを学ぶ工場見学を受け入れています

### ● 工場見学の受け入れ

2009年度は、11,061人の小学生、中学生、高校生が日本製紙グループ各社の工場を見学しました。

### 事例 苫小牧市立澄川小学校の社会学習 (日本製紙(株))

2009年9月8日、苫小牧市立澄川小学校の児童84人が日本製紙(株)北海道工場勇払事業所を訪れました。

「紙について詳しく学習したい」との要請に応じて、工場見学後、従業員の指導による紙すきを行いました。



従業員の指導による紙すき体験

また、子どもたちがのびのびと楽しめる社会学習となるよう、昼食時には研修施設「銀環館」を開放しました。

## 従業員による授業機会の提供

専門知識を生かし、次世代育成に向けて学校授業に協力しています

### 事例 西新井中学校の企業訪問学習 (日本製紙(株))

2009年12月に開催された「エコプロダクツ展」で、日本製紙グループのブースを見学した東京・西新井中学校の要請に応え、2010年2月5日、同中学校1年生と先生、計5人が、企業訪問学習として日本製紙(株)研究開発本部に来場しました。

生徒たちは、紙がつくられる工程や古紙リサイクルについて説明を受けた後、実際に従業員の指導によって紙すきを体験し、さらに研究開発本部にあるテスト抄紙機を見学しました。



テスト抄紙機を見学

後日、校長先生から「生徒たちは、企業の環境への姿勢を体感し、多くのことを学びました」と、お礼状をいただきました。

## 就業体験の機会の提供

次代を担う若者たちに就業体験の場を提供しています

### 事例 高校生の就業体験 (日本製紙ケミカル(株))

日本製紙ケミカル(株)機能材料研究所は、2004年から、埼玉県立玉川工業高校のインターンシップを受け入れています。2009年度は、11月に3日間の日程で2人を受け入れ、職業観や勤労観を培う場を提供しました。

機能材料研究所は、2008年に埼玉県知事から感謝状をいただいています。

### 事例 Work Work事業に参加 (日本紙パック(株))

日本紙パックグループの江川紙パック(株)は、2009年12月1日、茨城県五霞町立五霞中学校で行われたWork Work事業に参加しました。

この事業は、中学生がいろいろな企業の社員に仕事や社会の話を聞き、自分の将来を考えてもらうための取り組みです。

当日は24社が参加し、生徒たちは数人一組で参加企業のテーブルを回りました。江川紙パック(株)の



紙パックについて説明

席では、「仕事から学んだことは」との質問があり、「良い人間関係づくり」と答えました。

## 国内社有林の活用

### 国内社有林を活用しながら 森の恩恵について伝えていきます

#### ● 「森と紙のなかよし学校」を東北でトライアル実施

「森と紙のなかよし学校」は、日本製紙(株)の国内社有林(約9万ヘクタール)を活用した、日本製紙グループ独自の自然環境教室です。2006年に群馬県の菅沼社有林(丸沼高原)でスタートし、2007年からは熊本県の豊野社有



佐須浜社有林をガイドする工場従業員

林でも開催。さらに、2009年8月には宮城県の佐須浜社有林で従業員家族を対象にしたトライアルを実施しました。

この取り組みは、社有林の豊かな自然に触れるとともに、生活に身近な「紙」と「森」とのつながりを体験してもらうことを目指しています。

プログラムは従業員の手づくりで、従業員のガイドによる森林ハイキングや、森で拾ってきた小枝を材料にした紙づくりなど、参加者が楽しめるように趣向を凝らしています。また、豊野社有林、佐須浜社有林では、当日のプログラムのひとつとして工場見学を組み入れています。

参加者は一般から公募しています。菅沼社有林(丸沼高原)では参加者の募集・当日の引率などで(社)日本フィランソロピー協会の協力をいただいています。また、豊野社有林では、八代工場に近いので、工場周辺の小学校から参加者を募集しています。2010年3月までに計12回開催し、370人を超える親子や地元の高校生などが参加しました。



紙すきが終わって記念撮影(丸沼高原)

## 音楽を通じた教育機会の提供

### コンサートへの協賛などを通じて、 良質な音楽に触れる機会を提供しています

日本製紙グループは、芸術に親しむ機会を提供することにより人材育成、地域・文化の発展に貢献し、豊かな社会の形成につながるよう、今後も支援活動を続けていきます。

#### 事例 札幌ポップスコンサートへご招待 (日本製紙(株))

2009年7月21日、財団法人札幌交響楽団と北海道新聞社が主催し、日本製紙(株)が特別協賛する「日本製紙 Presents 札幌ポップスコンサート」が札幌コンサートホールKitaraで開催されました。



札幌ポップスコンサートに招待した子どもたち

このコンサートは北海道の文化芸術を支援することを目的に毎年夏に開催されています。日本製紙(株)北

海道工場の勇払・旭川・

白老の3事業所では

地域の小学生、中学生、高校生、および教員の方々計242人を招待し、オーケストラの魅力を存分に楽しんでいただきました。

#### 事例 日本製紙MUSEUM CONCERTへ協賛 (日本製紙(株))

日本製紙(株)は、静岡県立美術館エントランスホールで年4回開催される「日本製紙MUSEUM CONCERT」(主催:静岡新聞社など)に、1991年から協賛しています。

クオリティの高い音楽を身近に親しむことができる



2010年10月に行われた「乗コーダーカルテット」(静岡新聞社・静岡放送 提供)

コンサートとして、毎回多数の入場申し込みがあり、地元で根強い人気を誇ります。

## 教育に関する活動

### スポーツを通じた教育機会の提供

#### スポーツ教室・大会の開催などを通じて、 社会の活性化に貢献していきます

日本製紙グループは、子どもたちがアイスホッケーや野球の一流選手たちから技術を学べるスポーツ教室や、大会を開催しています。

スポーツを通じて、心身を鍛えながら多くの人と交流できる機会を提供することにより、活力ある社会の実現に貢献していきます。

#### 事例 野球教室、野球大会の開催 (日本製紙(株)、四国コカ・コーラボトリング(株))

四国コカ・コーラボトリング(株)は、メインスポンサーになっている四国・九州アイランドリーグの監督や選手を指導者として迎え、2005年から子どもたちを対象にコカ・コーラ野球教室を開催しています。

2009年12月7日、愛媛県西条市立周布小学校で開催された野球教室には、5年生33人が参加しました。愛媛マンダリンパイレーツの山下良太投手と篠原慎平投手とキャッチボールやバッティングを行った



グラウンドでの野球教室

後、「夢に向かって生きる」というテーマで両選手と生徒たちの交流を図りました。

また、日本製紙(株)石巻工場は、2004年から硬式野球部員による少年野球教室を開催し、地域の野球スポーツ少年団との交流を深めています。さらに、日本製紙(株)岩国工場では、2009年11月7日・8日に、「日本製紙杯小学生軟式野球大会」を開催。7回目を迎える本大会では、工場



元気に選手宣誓

近隣地域の小学校9チーム、約200人が参加し、熱戦を繰り広げました。

#### 事例 アイスホッケー教室、アイスホッケー大会の開催 (日本製紙(株))

日本製紙(株)のアイスホッケーチーム「日本製紙クレインズ」では、15校以上ある北海道釧路市内の全小学校を対象としてアイスホッケー教室を開催しています。各小学校での練習に監督・コーチ・選手が数人ずつ参加して直接指導を行います。丁寧でわかりやすい指導は、子どもたち、学校の先生、父兄から好評を得ています。

また、小中学生を対象とした「日本製紙杯争奪 アイスホッケー大会」も開催しています。30年以上の長い歴史を持つ大会であり、毎年、冷たい氷の上で熱い試合が繰り広げられます。



小学生に指導するクレインズの選手



アイスホッケー大会の熱戦

### 教育現場への物品提供

#### 地域の小学校などに印刷物を無償供与し、 学習に役立てていただいています

##### ● 地元の学校へ学生新聞を寄贈

日本製紙物流(株)は、2007年から本社近隣の学校に毎日学生新聞を寄贈しています。当初、王子小学校と王子桜中学校を対象としていましたが、両校が移転したため、2009年から東京都北区立東十条小学校と東京都立飛鳥高校の2校に提供しています。時事問題をまとめた冊子や英字新聞など、子どもや学生向けに企画された同新聞の発行物は、学習教材としても活用されています。

# 環境に関する活動

生態系の保護・育成や資源リサイクル、緑化など、  
地域・事業所の特性をふまえた環境保全活動に力を入れています

## 生物多様性の保全

グループの経営資源を活用しながら  
希少種の保護・育成に取り組んでいます

**事例 「シラネアオイを守る会」の活動を支援**  
(日本製紙(株)、日本製紙総合開発(株))

「シラネアオイを守る会」は、群馬県のレッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されるシラネアオイを保護するために、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県利根郡片品村が中心となって、2000年12月に発足しました。

日本製紙グループでは、設立当初から、地元で丸沼高原リゾートを運営する日本製紙総合開発(株)が同会を運営面で支援し、シラネアオイの群生の復元のために日本製紙(株)の菅沼社有林の一部を開放して



植栽のようす

います。

また、2002年からグループ社員にボランティアを公募し、植栽などの作業活動に参加しています。

**事例 絶滅危惧植物を増殖**  
(日本製紙(株))

日本製紙(株)研究開発本部は、国立科学博物館筑波実験植物園から分譲された15種類の絶滅危惧植物のうち14品種について、独自の「光独立栄養培養技術」を用いた容器内挿し木技術により発根に成功しました。

2009年9月24日には、同植物園の國府方 吾郎先生を招いて、発根苗の返還式を行いました。國府方先生からは「難発根性の品種が発根した成果はすばら



返還式

しい。絶滅危惧植物の保全活動に協力いただき、ありがたい」との言葉をいただきました。

## リサイクル活動の推進

リサイクルとその啓発活動を続けています

● 「リサイクルプラザ紙遊館」の運営

日本製紙(株)北海道工場旭川事業所に隣接する「リサイクルプラザ紙遊館」は、1999年10月20日(リサイクルの日)にオープンしました。古紙の再生工程をわかりやすく紹介するとともに、手すき体験もできるようになっています。すでに延べ8万7千人の来館者を数えています(2010年3月末)。

## 地域に緑を増やす活動

各地で森を育む活動に参加しています

**事例 「岩国市水源の森植樹祭」を支えるボランティア**  
(日本製紙クレシア(株))

日本製紙クレシア(株)岩国工場は、2009年10月30日、羅漢山県立自然公園(山口県)で行われた「岩国市水源の森植樹祭」に参加しました。同公園内には、岩国工場が取水している錦川の水源があります。

この日は、同工場近隣の通津小学校など岩国内



植栽方法を説明

の小学校の児童約200人が、ボランティアで参加した大人のサポートを受けながら、約1,000本の植樹を行いました。

## 環境教育に関する機会の提供

環境意識を育てる機会に協力しています

**事例 どんぐり拾いに協力**  
(日本製紙クレシア(株))

毎年10月、日本製紙クレシア(株)開成工場の近隣の町立開成小学校1年生が、工場構内のシイの木から落ちるどんぐりを拾いに来て、図工の授業でコマやヤジロベエなどをつくります。



工場構内でのどんぐり拾い



# 地域・社会との共生などに関連する活動

事業所をおく各地域で、自治体や地域の方々とともに  
清潔・安全で暮らしやすい町づくりや、地域の活性化を図る取り組みを継続しています

## 地域美化活動

きれいな町の維持に取り組んでいます

### ● 事業所周辺の清掃活動の実施

日本製紙グループでは、定期的に工場など事業所周辺の清掃活動を実施しています。また、環境月間にあわせた清掃活動や地域清掃イベントへの参加を通して、地域の美化に取り組んでいます。

### 事例 環境月間での清掃活動

日本製紙グループの各事業所では、2010年の環境月間の取り組みとして、事業所周辺の清掃活動を実施しました。今回は約2200人が参加し、約3.5トンと45リットルごみ袋230袋分のごみを回収しました※。

日本製紙グループでは、それぞれの事業所で独自に企画・実施される清掃活動と併せて、事業所周辺の美化に努めていきます。

※ 地域の事情に合わせて清掃活動を実施しているため、3月末から7月の間に実施したものを集計しています。参加者およびごみ回収量は、確認できたものを集計しています

### 環境月間中の清掃活動(2010年)



工場周辺清掃  
(日本製紙(パピリア)(株)吹田工場)



工場周辺清掃  
(日本製紙(株)岩国工場)



● 清掃活動実施事業所 所在地



工場周辺清掃  
(四国コカ・コーラボトリング(株)本社・小松工場)

## 地域文化の保全

伝統文化に触れる機会づくりを支援しています

### 事例 飛鳥山薪能の運営の支援・協賛 (日本製紙総合開発(株))

飛鳥山薪能は、東京都北区で生まれ育った能楽師の故木村薫哉氏が、能楽を通して地元へ恩返しをしたとい考え構想した催しです。

毎年秋に、同区の飛鳥山公園内にある野外の舞台



繰り広げられる能舞台

で能が演じられます。日本製紙総合開発(株)は、地元企業としてこの催しに協賛するとともに、会場案内などにも協力して運営を支援しています。

## 地域との共生

地域行事への参加や物資の提供を通じて  
地域の方々と交流を図っています

### 事例 チップ船で南アフリカへ物資を提供 (日本製紙(株))

2010年5月24日、日本製紙(株)八代工場と構内協力会の従業員・家族から寄せられた子どもの玩具、バッグ、食器など、善意の物資「八代まごころ便」(段ボール41箱分)が、南アフリカ・日本製紙(株)のピーターマリッツバーグ事務所を通じて、国際的な孤児育成施設である「SOSチルドレンズビレッジズ」に届けられました。

輸送は八代港から南アフリカへ向かうチップ船の配船を待って、3年越しで実施にこぎつきました。届けられた物資は、遠い日本から真心のこもったプレゼントとして大変喜ばれました。



支援物資を手渡す



梱包を開いて配布

## ● お祭りなど地域行事への参加

地域に伝わるお祭りなどの伝統行事は、文化の継承や地域の活性化に重要な役割を担っています。

日本製紙グループでは、地域の行事に積極的に参加・協賛し、地域との交流を深めながら、地域の歴史文化の継承に貢献しています。

### 事例 「竹駒神社 秋季大祭」の神輿担ぎに参加 (日本製紙(株))

衣・食・住の守護神を祭る日本三稲荷のひとつに数えられる竹駒神社(宮城県岩沼市)。その竹駒神社秋季大祭の神輿担ぎに、2009年9月26日、27日、日本



神輿を担ぐ工場従業員

製紙(株)岩沼工場従業員60人が参加しました。「セイヤツ! セイヤツ!」と勇敢な掛け声とともに市内をねり歩き、祭りを盛り上げました。

### 事例 石巻川開き祭りへの用紙協賛・参加 (日本製紙(株))

1916年(大正5年)から続く歴史ある祭りである石巻川開き祭りに、日本製紙(株)石巻工場はプログラムに使用される用紙を提供しています。

2009年8月1日・2日に行われた祭りでは、孫兵衛船競漕、大綱引き大会、大漁踊りに延べ150人の従



孫兵衛船競漕

業員が参加し、勇壮な戦いや軽快な踊りを披露しました。

## 障害者スポーツの支援

### アイススレッジホッケーを通じて 障害者スポーツを支援しています

#### ● バンクーバー・パラリンピックで活躍

2010年3月12日から10日間、カナダ・バンクーバーで開かれたパラリンピックのアイススレッジホッケーの日本代表選手として、日本製紙(株)北海道工場の三澤英司さんが出場し、銀メダルを獲得しました。同工場は、国内外の遠征など、日本を代表するアイススレッジホッケーの選手である三澤さんの選手生活を全面的に支援しています。



北海道工場の報告会で喜びを語る三澤選手

また、三澤さんは、苦勞を乗り越えてきた自らの人生を、地域の要請に応じて講演会などで積極的に語り、聴衆に希望を与えています。

## 従業員へのボランティアの機会の提供

### 従業員が主体となって取り組む活動を 積極的にサポートしています

#### ● 「障害を持つ方々のための特別鑑賞会」への参加

日本製紙グループは、東京都美術館が主催する「障害を持つ方々のための特別鑑賞会」の運営に協力しています。



入場をお手伝いする従業員

2009年度は、従業員延べ88人がボランティアとして参加しました。

## 藤原科学財団への支援

### 科学技術の振興を支援しています

藤原科学財団の「藤原賞」は、日本のノーベル賞ともいわれ、優れた功績のあった日本の科学者を顕彰するものです。創設者の藤原銀次郎翁が日本の科学技術の振興に貢献してきた精神を受け継ぎ、日本製紙(株)は財政的な支援を続けています。